

第 26 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2008 年 5 月 28 日(水) 16 時 00 分～17 時 30 分

場所: 管理棟 2 階 第一応接室

出席者: 横山部会長、栗野、松田、大町、小山、奥山、金子、神戸、高畑、片山、赤平、山崎各委員、小室編集局員、斎藤編集補助員

【配布資料】

[資料 26-1] 連絡事項-2. 次回までの提出案件

[資料 26-2] 磁化履歴曲線のごとく

[資料 26-3] II)-1-② 通史割付

[資料 26-4] 100 周年記念誌 (Journal)

I) 連絡事項

1. 来月の「今月の話題」は高畑委員が担当する旨、小室編集局員から依頼があった。
2. 次回までの提出案件に関して、資料 26-1 に基づき、次回の部会にて、進捗状況の報告の依頼が小室編集局員からあった。

II) 協議事項

1. 百年史

- (1) 小池委員の今月の話題「磁化履歴曲線のごとく」について資料 26-2 に基づき紹介があった。
- (2) 小室編集局員から資料 26-2 に基づき、通史戦前編の割付について説明があった。資料 26-2 は書きたい内容と、使う資料の関係を表している。主な内容は以下の通りである。
 1. 第 1 章は実業専門学校の成立を説明する。明治維新にて政府が性急に教育制度の導入を進める背景を書く。ここで実業専門学校が出てくる経緯を記述する。井上大臣が富国強兵の方針の下に、産業・工業教育を推し進めた。しかし当時、日本国内には工場がほとんど無かった。日露戦争の勃発の頃から高等工業学校が出来はじめる。
 2. 第 2 章では米沢高等工業専門学校の創立から昭和 2 年頃までの話題について触れる。2.1 では、米沢になぜ高等工業が誘致できたのか。米沢有為会をはじめとする政治的な話を中心に記述する。2.2 では大正 2 年の開校式を中心に、トピックスを歴代校長にあわせて記述する。主な内容としては二科(色染・紡織)の廃止(桐生への移転)、開校式、秦教授の動向、米沢の大火(詳細な日記の記述がある)などである。また、大学昇格の問題があったが、頓挫した。大正 14 年には軍事教練が始まる。研究が活発に行なわれてきたり、運動場の拡張、スキーが体育の正科目になる、学術談話会や米織研究会などが活発に行われている。
 3. 神戸委員から大正 12 年の動力の電化について質問があり、この時までは自分たちで発電しており、大正 12 年からは買電している、との回答があった。
 4. また、学校創立時に 10 万円 の費用を要したというが、現在ではいくりに換算されるかとの質問があり、約 10～20 億円くらいであろうとの回答があった。

2. 100 周年記念誌

- (1) キーワードの選定について松田 J 班長から説明があった

1. 資料 26-4 について説明があった。黄色は部局史に掲載される可能性がある項目、赤色は重複している項目、青色は書きにくいと思われる項目である。これらを基に検討すると、全体 80 くらいまでに絞りこめそうである。赤は省けるものである。濃い青は細かいキーワードで説明できるとした。また、単科寮は借り上げ寮として一括して取り上げる。白楊寮は別項目とする。
2. 説明文は 7 月いっぱいまで完成させる。説明文は 80～100 字程度。一週間ほど時間を置いて読み直す。
3. J 班でキーワードの選定と割り振りをする。
4. 歴史との兼ね合いも考慮する必要がある。例えば、生体センシングの「高分子材料研究所」

と機能高分子の「高分子材料研究施設」など。

5. 生体センシングの「理学部」「医学部」もまた単なる学科名では無く、歴史の中で意味があるので、書き方を工夫して掲載するようになるであろう。また、独立専攻があってもいいかもしれない、という意見があった。

(2) 「100人の声」の進め方について

1. まず試しに原稿の依頼をしてみることで進める。そのため、各学科・ユニットで1~2名を選定する。その原稿依頼と受諾・拒否などの様子を参考に、修正しながら作業を進めたいとの提案があった。
2. ぎょうせいで提示したサンプル(戦争と工学)が格調高い。逆に書きやすい、取り組みやすいもう一つのサンプルを「ぎょうせい」に用意してもらうこととした。
3. 各学科・ユニットで原稿の依頼をする人選を進めておくよう、要請があった。

III) その他

- (1) 第25回 100年史誌部会議事録に修正箇所の指摘があった。

II) 協議事項、1. 100周年記念誌、百人の声の寄稿に関しての4. に間違いがあった。以下のように、訂正する。

(誤) 生体センシングは10名、工業会で10名、部局から5名程度とし、共通講座と残りをJ班で選定する。

(正) 生体センシングと共通講座で10名、工業会で10名、部局から5名程度とし、残りをJ班で選定する。

IV) 次回の会議について

- (1) 次回は7月2日(水)16時 重要文化財2階会議室

2008年6月27日